

## 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所

事業所名：飯綱町立りんごっ子保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	講評
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。	[取り組み状況] 保育園のしおりに保育基本方針、児童憲章、児童福祉法、保育目標を記載して保護者に園の方針や姿勢について明らかにしている。それとともに、保育指針、地域の実態、利用する子どもの発達過程等を踏まえた全体的な計画が作成されている。今年度は新たに「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策」、「第三者評価の理解」の計画が立てられている。 全体的な計画を基に年間指導計画が立てられ、保育実践の振り返り、自己評価にて、次の計画に生かしていることも確認できる。
					■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。	
					■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。	
■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。						
■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。						
(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。	[取り組み状況] 園舎は木材が豊富に使われ、広くて長い廊下には遊具等も置かれ、異年齢児同士が遊べる格好な場となっている。 また、各クラス内とは別に絵本コーナーが2ヶ所設置され、廊下の長椅子で読むこともでき、また、読書後の整理整頓の工夫もある。 各クラスは床と畳スペースがあり、家庭と同様に過ごせる環境となっている。トイレは和洋式があり、家庭に合わせての使用や、使用方法が学べる場でもある。広い園庭は危険なく遊べるように未満児、以上児に設置、プール、畑、昆虫探しや探検のできる場所などがある。 子どもの生活、活動の場として、心地よく、また、豊かに過ごせる環境を整えている。		
			■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。			
			■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。			
■ 9 内装等には、木材を利用している。						
■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。						
■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。						
■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。						
b)	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	[取り組み状況] 指導計画や個別指導計画に盛り込むとともに、家庭や一人ひとりの発達の個人差を十分に理解し、きめ細かな関わりを基本としている。 そして、保育士間で共通の援助となるよう話し合いで共有し、子どもが安定した生活となるよう支えている。 [検討課題] 理念である「一人ひとりの子どもを心から尊重」の更なる理解を深め、何げなく言ってしまいう制止やせかす口調等の禁止は、保育士同士の確認や上司からの指導で、お互いが意識することも必要と思われる。			
		■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。				
		■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。				
		■ 16 子ども欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。				
		■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。				
		■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</li> <li>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</li> <li>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</li> <li>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</li> <li>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 年間、月間、週の指導計画に基本的な生活習慣を身につける援助が計画され、環境構成、配慮事項について記されている。 子ども一人ひとりの発達に合わせ、適切な時期を配慮し、子どものやろうとする気持ちを第一として達成感へと繋げている。</p> <p>[検討課題] 基本的な生活習慣の習得は家庭と共に展開していくことが最も重要で、保護者と十分話し合いながら実施することを期待したい。</p>
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 広い廊下やホール、庭園では異年齢児と一緒に自発的、意欲的、主体的に活動している姿がみられる。 また、園庭での虫捕りや生きものへの興味、花や野菜作りが楽しめる環境が整備されている。 信州型自然保育認定園であり、周りの自然環境や地域資源を活用し、出掛ける機会を重視して自然の中で様々なことを学べるよう図っている。 コロナ禍で地域の方との関りは制限されているが、工夫しながらの取り組みもみられる。</p>
			⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li>■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。</li> <li>■ 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。</li> <li>■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li>■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li>■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 現在の利用する子どもに配慮して、0～1歳児は乳児室、2歳児は未満児室と分けている。どちらも明るい日差しと程良い広さ、床と畳スペースがあり、いつでも休息ができる造りとなっている。 保育士による手作りの椅子、踏台、玩具など、家具類にはクッション製のテープを貼り、危険なく安全な環境を整えている。 保育士は子どもとの愛着関係を特に大切にしながら自分でしようとする気持ちを尊重し、関わっている。 保護者とは送迎時や連絡帳を通じて一日の様子を丁寧に伝え、子どもの成長を共に喜ぶことを心掛けている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評	
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。	<p>[検討課題]</p> <p>法令で定められた個別指導計画であり、保護者の意向を踏まえ、両者が子どもの成長に気づくように、また、連携しての子育てが進むよう、同意を得ての保育実践を期待したい。</p> <p>そして、保育士にとって当たり前と思えることも保護者は知らないことも多く、活動の目的やその効果など、連絡帳やクラス便りを通して、成長の喜びを更に分かち合える機会としたい。</p>	
	■			41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。			
	■			42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。			
	■	43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。					
	■	44 保育士等が、友だちとの関わりの仲立ちをしている。					
	■	45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。					
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■	47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	<p>[全体的な計画]</p> <p>「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」に向け、各年齢別の計画が立てられ実践している。</p> <p>年齢関係なく思い切り遊ぶ姿、畑での野菜の成長と収穫の喜び、信州型自然保育として自然のなかでの経験を通して感性や他者との関わり、協同性等を身につけている。</p> <p>廊下には木の実や葉を利用しての子ども作品を飾り、各クラスには捕えた昆虫や生き物を大切に育てている姿がある。</p> <p>年長になると運動会やお楽しみ会の内容を自分達で計画し、主体的な活動をしている。特色ある保育活動として、年少～年長児による「英語で遊ぼう」、年中、年長児の「わくわくスポーツ」もある。</p>	
	■			48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。			
	■			49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。			
	■	50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。					
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。		<p>[取り組み状況]</p> <p>配慮を必要とする子どもには、臨床心理士、療育コーディネーター、発達支援員等の助言を得て個々に対応し、より良い保育となるように図っている。</p> <p>個別指導計画は、クラスの指導計画に合わせた内容で、クラス子ども達と一緒に活動できるよう関連づけている。</p> <p>保護者とは支援会議で課題や悩みについて話し合い、送迎時や行事の折に情報交換や子どもの輝く姿を共に喜ぶ機会としている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>全ての保護者に、SDGsの周知・啓発で、障がいのある子どもやその保護者への理解や配慮を得る取り組み、障がいのある方も利用、来園できる環境整備など、短期的、長期的な課題も感じる。</p>
	■			52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。			
	■			53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。			
	■			54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。			
	■			55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。			
	■			56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。			
	■	57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。					
	■	58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。					

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 <input type="checkbox"/> 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	<p>[取り組み状況] 早朝、延長の保育は延長保育室で全員が過ごしている。自然に大きな子どもが小さな子どもの世話や相手をする様子が見られる。延長時間も比較的短い事もあり、おやつ等の提供はないが、水分補給は心掛けている。担当保育士から延長保育士への連絡事項は日誌にて行っている。</p> <p>[検討課題] 早朝、担当、延長の各保育士間の連携で、保護者との連携の充実を図る更なる取り組みで保護者の満足度を高めて、信頼関係の構築となることを期待したい。そして、子どもの早朝、日中活動について延長保育士へ申し送ることで心身の把握ができ、保育内容の充実とともに保護者からの安心、信頼も更に増すと思われる。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	<p>[取り組み状況] 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を基に園の生活の中で育っていくよう保育内容を実践し、小学校以降の生活へ繋がるように取り組んでいる。小学校との連携は年数回の保小連絡会や小学校教員の保育参観で子どもの様子を知る機会としている。また、子ども達が体験入学や音楽会、児童会での訪問、小学校への散歩などで見通しがもてるよう努めている。5歳児相談事業では学校生活に向け不安を持つ保護者に専門機関を通じてサポートをしている。</p> <p>[検討課題] 就学に向けてのお昼寝の終了、椅子に座っている時間の確保、交通ルールについて等、学校生活に安心して進める取り組みを計画の中に入れることも必要と思われる。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 <input checked="" type="checkbox"/> 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。	<p>[取り組み状況] 「保育園保健計画」を指導計画に取り入れ、発達、発育に適した生活が送れるように取り組んでいる。</p> <p>保護者からアセスメントにて既往症や予防接種、乳幼児健診等、子どもの健康に関する情報を把握するとともに、園のしおりにて感染症について詳しく説明している。</p> <p>毎週の園だよりにて健康に関する園の方針や取り組み、感染症について等、保護者にきめ細かな情報を提供している。</p> <p>また、SIDS事故防止のための睡眠時チェック表もマニュアル化して、具体的に何を確認するのかの改定も行っている。</p> <p>[検討課題] 乳幼児突然死症候群は家庭でも起こりえることなので、保護者等に向けての情報発信を望みたい。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 年2回の内科、歯科検診、4歳児の視力検査を実施し、その結果を保護者に連絡をしている。受診が必要な子どもには治癒証明書を提出してもらい連携を図っている。歯の健康については食後の歯みがき実施とともに、絵本などを活用して歯みがきの大切さを教えている。コロナ禍で保育士の仕上げ磨きが困難なこともあり、家庭での仕上げ磨きを保護者に勧めている。</p> <p>[検討課題] 歯科医等の罹患を聞かないのはなぜか、担当課の事例や対策などの収集で、健診結果を保育に反映可能な策の検討を期待したい。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>□ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>□ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 現在、アレルギー疾患の子どもはいないが、アレルギー対応ガイドラインは整備され、栄養士が中心となりいつでも対応できる準備は整っている。</p> <p>[検討課題] 該当する子どもがいなくとも、アレルゲン、エピペンの預かり、緊急連絡先、主治医を記載した一覧表を作成して職員室に掲示するなど、速やかな対応が可能となる体制の整備は必要と思われる。 また、アレルギーや慢性疾患について、職員が正しい理解を持ち、他の保護者への説明、理解が可能となる環境も期待したい。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 幼児期の食生活が成長や発育に影響することを考えて、食育に高い意識をもっている。 全体的な計画からの各指導計画に食育年間計画を位置づけ、積極的に取り組んでいる。 落ち着いて食事ができるように環境を整備し、調理の場面風景を見ることも可能で、食事サンプルの展示で楽しみとなる計らいもある。 毎月の「ばくばく通信」では食育テーマについて説明し、食の大切さや基本的習慣について、また、食事マナー等について家庭に知らせている。 また、カンタンレシピを紹介する等、その内容の充実さに園の姿勢が窺える。 さらに、勤労家庭ではレトルト食品、出来合いの総菜を利用する家庭も多く、本来の姿、形が見えない食材も多いことに配慮して、献立表に載る食材については調理前に子どもたちに現物を見せたり、割って中を見せるなど、食材への興味を持たせるなどの工夫もしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</li> <li>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>園の給食は2サイクルメニューとし、同じメニューを月2回提供することで、1回目は苦手なものでも2回目は多く食べられるようになるとの意図で取り組んでいる。</p> <p>行事に合わせての行事食、季節感のある献立、地域食材や地元の農産物の活用など、食の文化や食の安全を心掛けている。</p> <p>子ども達が畑で育てた野菜の生長、収穫、調理の手伝いは、いのちの育ちといのちを大切にする力を養う機会となっている。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>連絡帳を通して園での生活の様子や情報交換を行うとともに、クラスだよりで保育内容や来月のねらい等について詳しく知らせている。</p> <p>また、各クラス入り口に月間計画を掲示したり、毎週発行の園だよりにて園の方針や意図等について理解を深めている。コロナ禍で保護者が園と関わる機会が制限されるなか工夫しながら実施し、子どもの成長を喜べるようにしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保護者から「子どもの1日の生活を知りたい」との声が聞かれる。</p> <p>その方法を検討して、更に保護者の満足度を高める取り組みを期待したい。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>■ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>朝夕の送迎時に懇談して信頼関係が構築できるように努めている。</p> <p>保護者の不安や悩みについて、いつでも個人面談に応じられるよう心掛けている。</p> <p>また、町の子育て支援センターや、はぐくみサポートセンター等で相談できることも知らせている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>相談に応じる体制について具体的な内容を「園のしおり」等に記載することで、更に言いやすい環境が整備されると思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>b) ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>□ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 日頃から保護者等の虐待など、非行を見逃さないように、職員間で注意を払っている。 疑いがある場合は児童相談所に繋げ継続的に対応を話し合っている。 また、町の虐待等対策協議会にて情報を共有し、連携のもとに取り組んでいる。</p> <p>[検討課題] 児童虐待の内容は様々であり、「心的トラウマのチェックリスト」等の活用で職員が意識を高め、早期発見、早期対応となることを期待したい。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>b) ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>□ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 保育士は月間、週の指導計画について、計画のねらい、環境構成、配慮事項が適切であったかの振り返りと自己評価を行っている。</p> <p>[検討課題] 年度末の保育士の振り返り表、年間指導計画や月案の自己評価など、それらを次のステップへ活用する職員間での共有化を図る取り組みの機会を増やしたり、対話型の園内研修としたりするなど、継続的・組織的に次の保育への改善を図ることで、園全体の保育の質の向上につながると考えたい。 なお、主任保育士が現在口頭で行っている各保育士の自己評価についてのアドバイスなどは文書として残すなど、保育士の努力、工夫を認め、保育士自身が成長を感じ、モチベーションの維持、向上に繋がる仕組みとしたい。</p>